



Y's Men International

Japan East Region 2021-2022 理事通信

主題 “Think for the next generation.” 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
スローガン “We are stronger together than we are alone.” 「絆を深める時」

理事メッセージ

2021年-2022年東日本区理事
大久保知宏（宇都宮）



2022年6月4日5日の両日、会員の皆様のご協力のもと、第25回東日本区大会を完全 Zoom 形式で開催させていただきました。プログラムの内容は、大会実行委員長の山田公平さんのレポートをご覧ください。2月24日未明のロシアによるウクライナへの武力侵攻があり、3月中旬から日本 YMCA 同盟がウクライナからの避難民の日本での生活の支援を始めていることから、今回の大会テーマを「絆を深める時」に、「ウクライナ支援、ワイズは何ができるか？」を加えた形で行いました。Zoom による開催は「物足りなさ」と「利便性」の二つの評価が分かれるものではありませんが、私の活動方針のである「新しい生活様式に沿ったクラブ運営を行う。」の実現のひとつの形と見ていただければと思います。

区大会でご報告させていただいた表彰の中で漏れと誤りがありました。深くお詫びいたします。なお、巻末に表彰一覧を添付いたしますので、あらためてご確認ください。よろしく願いいたします。

国際協会では2022年から2032年までの10年間の中期計画として、「Strategy2032」を公表しました。その訳文を東西日本区合同翻訳・通訳グループのご奉仕により作成されましたので、本理事通信の巻末に加えます。今後、区・部・クラブで理解を深めていただき、それぞれの運営方針に取り入れていただければと考えています。

11月15日から17日に台湾・台北で開催される国際協会創立100周年祝賀会の登録受け付けが開始されました。<http://ymi-100.org>から登録でき、登録費の支払いはクレジットカードで行えます。登録費はアーリーバードで、今なら420US\$です。

結びに、2021-2022年度を終えるに当たり、区の運営にご奉仕いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。常任役員会では常任役員、財政、行政の両監事、事業主任の皆さんに毎月活発な議論をいただきました。各委員会では、委員長の強い責任感とリーダーシップのもと、構成される委員の皆様には継続的なご奉仕をいただきました。各部の部長には、国際・地域・区からの依頼事項をタイムリーに各クラブ会長にお伝えいただき、部をリーディングしていただきました。専任委員の皆様には、それぞれの役目に対して真摯に取り組んでいただきました。一年間の東日本区の運営を通じて、絆が深まり、引き続きワイズメンズクラブの発展にご貢献いただければ幸いです。

第 25 回東日本区大会の報告

大会実行委員長
山田公平(宇都宮)

6月4-5日に実施された第25回東日本区大会は、



実行委員会が組織され、第1回目の会議は2020年9月15日であった。当初は地元のホテルで実施を目指していたが、2022年の1月からオミクロン株が出現、ホテルのキャンセル期限を考えると3月中旬に結論を出す必要があった。ウクライナへの支援募金も兼ねて、全面的 Zoom での大会運営が決められた。

Zoom による東日本区大会一プログラムごとの報告と感想(参加人数は、Zoom アカウントの数で1件で数名参加者がいることもある)

1. 開会式(参加 184 件) 大会のスタートは、YMCA ユースによるキャンプソングとウクライナ支援に関係する歌やビデオを届けた。そして、開会点鐘。ワイズソングは地元教会員によるコーラス、バナーセ

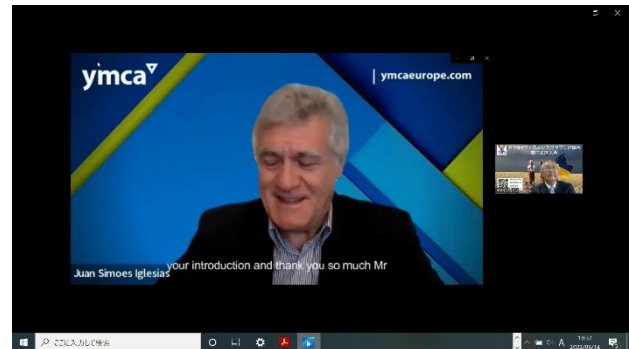


レモニーは、YMCA スタッフの協力による 58 クラブのバナーが画面上に紹介され、全部のバナーが一堂に集まるといった動画で行った。来賓祝辞が、キムサンチェ国際会長、田口同盟総主事、鷹箸とちぎ YMCA 理事長、大野アジア太平洋地域会長、新山西日本区理事によって行われた。この後、メモリアルアワーで亡くなった方々の貢献への感謝が述べられた。

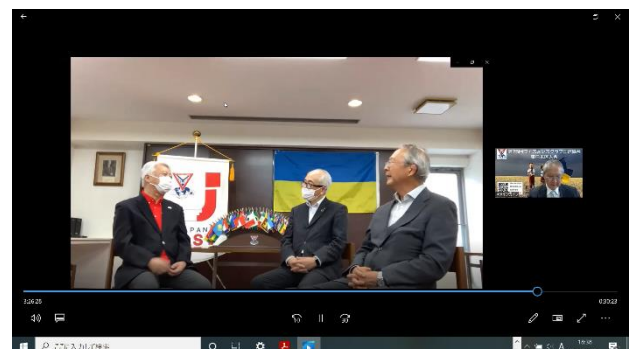
2. 東日本区アワー I (189 件) 理事報告、代議員報告、部長報告が行われ、その後は 11 月に台湾で開催されるワイズ創立 100 周年記念式典のアピール、また 2 月 4-5 日に実施予定の東西日本区 25

周年交流会(神戸)へのアピールが行われた。

3. 「ウクライナ情勢と YMCA・ワイズの在り方」というテーマで、3 人の発題があった。ヨーロッパ YMCA 同盟総主事の Juan Simoes Iglesias さんとの Zoom インタビューが流された。ウクライナからの難民 4 万人



を YMCA 経由でヨーロッパ各国の YMCA によって各地で支援されている。日本 YMCA 同盟経由で日本各地に受け入れられているケースも含まれる。2 番目のインタビューはワイズの立場からデンマーク区次



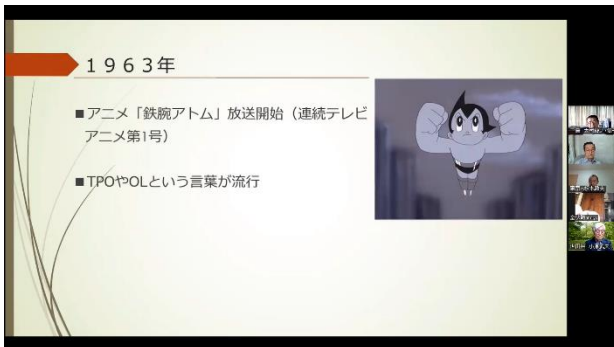
期理事の Erling Birkback さんであった。ワイズのデンマーク区にはウクライナはじめ、隣国のモルドバ、ポーランド、スロバキア、ルーマニアなどが含まれ、彼らが難民を迎え入れる支援活動に必要な物資をデンマーク区が資金提供しているというもの。東欧部ワイズには 350 人もの会員がいて、その多くがボランティアで支援活動をしているとのこと。3 番目のインタビューは、日本 YMCA 同盟総主事の田口さんに大久保理事、山田がインタビューしたもので、日本 YMCA 同盟が受け入れている 120 名のウクライナ難民への支援活動をしていることが紹介された。ネット上での募金協力も呼び掛けられた。

4. 聖日礼拝(64 件) 4 日(日)午前 8 時半から礼拝が行われた。市内の峰町キリスト教会の安食牧師

のお話、コーラス隊の人たちの協力で行われた。

5. とちぎ YMCA 高校生グループによる活動報告 (113 件) 子どもの貧困をテーマに活動が始まり、高校生主体で子ども食堂を実施している。この活動は、今年のユースアクションプロジェクトとしてワイズと YMCA による助成金も得ている。

6. 東日本区アワーその2(128 件) 最初に事業主任4名とワイズメネット会による事業報告と表彰結果が発表された。50年以上ワイズ会員歴のある19名のゴールドメンバーが紹介された。次に理事表彰として、



最優秀クラブに東京グリーンクラブ、会員増強ブースター賞最優秀クラブに甲府21クラブ、また会員増強最優秀個人賞として甲府21クラブの宮岡宏実さん(6名)、優秀賞に所沢クラブの大沢さんと熱海グロリークラブの紺野憲夫さんが表彰された。最後に、今年度の奈良傳賞が熱海クラブの山田修司さんと東京町田コスモスクラブの平本善一さんに贈られ、その貢献や経緯が紹介された。

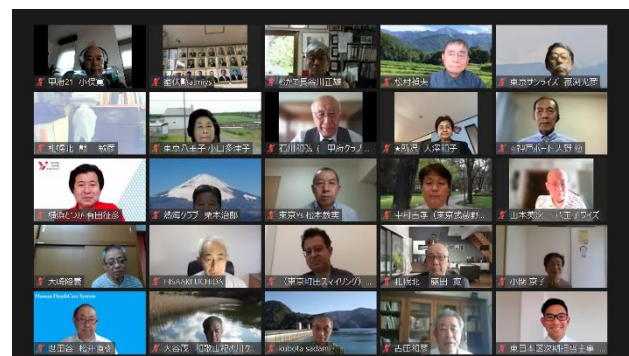
7. 閉会式 理事引継ぎ式は、事情により延期となり、そのまま閉会式を行った。次回第26回東日本区大会開催ホストである甲府21のアピールビデオが紹介された。最後に閉会点鐘をもって本大会終了となった。

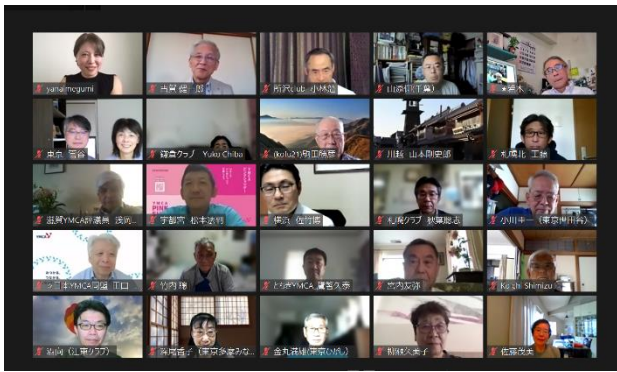
8. その他の会合 東日本区が主催した以下の会議も Zoom で行われた。1)役員会 6月3日夜、2)代議員会 6月4日(土)午前中、3)担当主事会 6月4日の午前中(20件)、4)ワイズメネットアワー6月4日の夜(38件)、5)ユースアワー 6月5日の午後(43件)

実行委員長としての感想

Zoom で予定していたほぼすべてのプログラムを終えることができたのは、ひとえに Zoom や録画の精度

の向上、さらにはそれらを使いこなす YMCA の若手スタッフの協力のおかげである。ウクライナの関係者へのインタビューもヨーロッパの実情をそのまま伝えることができた。これからの時代、Zoom がこれからのワイズ運動に必要不可欠な存在になると思う。今後のワイズ運動の発展のためにも積極的活用を促したいと思う。





に開催へと導いてくださった区大会実行委員会の皆さまに感謝をいたします。

ワイズメネットアワーは、東日本区大会 1 日目終了後の 18 時～20 時に Zoom で開催し、メネットに限らずメンの方々にも多数参加いただき、約 45 名の参加がありました。

始めに、日本 YMCA 同盟総主事田口様、東日本区理事大久保様より来賓のご挨拶を頂戴したのち、事業報告をいたしました。献金は、絵本事業、東日本支援事業、国際プロジェクトにそれぞれ使わせていただきます。また、行政監事田中様よりウクライナ YMCA による「脆弱な子どもたちの健康的なライフスタイルを促進するツールとしてのスポーツと非正規教育」というプロジェクトに対して国際プロジェクトの献金が使われているとの説明がありました。また、メネットクラブの設立についてのアドバイスがあり、次期委員会で具体的に検討していきたいと思えます。次に、ワイズメネット委員長の引継ぎ式を行い、松村仁子様(甲府21)に委員長のパトンを引き継ぎました。ワイズメネット委員長のバッジ及び聖書は後日新委員長に引継ぎます。

最後に、日本盲人キリスト教伝道協議会会員の龍崎靖子様より「盲伝と私～ 一言の贈り物～」と題して講演をしていただきました。一言の贈り物とは「せっかく」という言葉で、「せっかくいただいた今日だから喜んで生活している」との前向きな姿勢には深く感銘を受けました。初めての Zoom で開催ということもあり、いくつかのトラブルに見舞われたものの最後までプログラムを終えることが出来ましたことを感謝いたします。参加者の方との意見交換やアドバイスをいただけたことも重ねて感謝いたします。今期もワイズメネット委員会をお覚えいただきありがとうございました。



ワイズメネットアワーの報告

ワイズメネット委員長 澁谷実季(所沢)

ワイズメネットアワーは、2 年振りに Zoom での開催を実施することが出来ました。コロナ禍と理由で委員会事業が滞っていましたが、2021-2022 年度の最後

**担当主事会の報告 次期東日本区担当主事
大澤篤人(日本 YMCA 同盟)**

日時:2022年6月4日(土)10:00-11:30

参加者:東日本区ワイズ担当者 16名,深尾ワイズ,栗本ワイズ,事務局(大澤,有田)

①2020-2022年度概要報告

会の冒頭には、Zoomで久しぶりに顔を合わせた皆様の自己紹介から始めた。続いて、新型コロナウイルスの影響を受けたこの2年間を振り返りながら概要をご報告した。コロナ禍の中、例会やイベントを縮小せざるを得ない状況が続き、苦しいにあっても、ワイズメンズクラブとして変わらずYMCAへ支援を続けてくださったことを改めて確認した。またY's×SDGs Youth Action 2022やウクライナ緊急支援など、積極的な運動を進めておられることについても報告した。

②担当主事ハンドブック共有

2020年3月にワイズ・YMCAパートナーシップ検討委員会より作成、発行された「ワイズメンズクラブ担当主事ハンドブック」の内容を、参加者と共に確認した。特にワイズメンズクラブ成立時にさかのぼった担当主事誕生の経緯と、現在担当主事に求められている積極的な姿勢、具体的な役割について、ハンドブックの内容を抜粋しながら確認、共有した。

③各YMCA分団協議 テーマ:コロナ禍からのリカバリーとワイズ協働

約4名ずつの小グループに分かれて、30分間をフリートーク形式でおこなった。上記テーマを軸としながらも、貴重な交流の機会と捉え、各ワイズの近況も話された。終了後には、特に各クラブにおいて注目すべき事例について、グループごとに数分ずつ共有する時間を持った。分団協議には陪席いただいた深尾ワイズ、栗本ワイズも加わっていただき、限られた時間ではあったが有意義な時となった。

④その他

最後には深尾ワイズ、栗本ワイズからもご感想を伺った。大変いい機会に参加できてよかった、といった前向きなご意見と共に、会員増強について、担当主事が自分事として取り組んでほしい旨お話され、改めて

協力のご依頼をいただいた。

ユースアワーの報告

**ユース事業主任
相磯優子(沼津)**

今回のプログラムは、“SDG's×ユースアクション2022”に採用された10団体の中から、盛岡YMCA子ども人権チーム(子どもの権利:川柳募集企画と社会発信)、とちぎYMCA高校生ボランティアグループ「つぼみ」(子どもの貧困:子ども食堂・学習支援)、山梨YMCAユースリーダー会(環境(ゴミ)問題イベントの実施と啓発活動)の3グループの方々に参加、発表頂きました。先に実施された企画プレゼンテーションイベントでは持ち時間5分というかなり限られた時間で、解決したい地域課題、活動内容を発表頂きましたが、当日にエントリーシートなどの資料なく、Zoomにて、参加視聴頂いたワイズの皆様には充分なご理解は頂けなかったことでしょう。

今回はそれらプレゼンテーションに加えて、それぞれの取り組みの動機、背景など活動に至るまでや活動実施の経過状況、克服すべき問題点や迷い、悩みなども語って頂きました。また参加のユースリーダー同士による、他団体の活動への質問、また自分たちの迷い、悩みへの助言を求めるなどの意見交換。活動に寄り添い支援しているワイズメンズクラブの取り組みやワイズへの要望なども聞かせて頂きました。

“SDG's×ユースアクション2022”の事務局でエントリーシートも目にして私ですが、彼ら生の声を聞き、納得感、より理解が深まったと感じます。3団体の皆様へ改めて感謝と期待を持たせていただけたユースアワーでした。他の7団体にもこのような発表を聞かせて頂ける機会を望みます。ユースアワー視聴参加頂きました皆様に御礼申し上げます。



東日本区からのお知らせ

5 月度新規入会者

入会日	部	クラブ	入会者	紹介者
22/5/10	あずさ部	甲府 21	福山 平	宮岡宏美
22/5/12	北東部	宇都宮	早乙女操	大久保知宏

JEF 献金

献金日	部	クラブ	献金者	金額
22/5/18	あずさ部	東京武蔵野 多摩	板村哲也	¥10000

ミャンマー募金

14 件累計¥263,658 5 月 31 日送金

ウクライナ募金

40 件累計¥898,000

JEF から支出¥102,000 を加えて 5 月 31 日送金

YMCA 報告

日本 YMCA 同盟協力主事/担当主事
光永尚生(三島)



1. ウクライナ関係

■ウクライナ緊急支援募金
第二期スタート (8 月 31 日
まで)

3 月初旬から始まった日本 YMCA 同盟、ヨーロッパ YMCA 同盟、ウクライナ YMCA との連携による避難者支援は、4 月 28 日までに 39 組 87 名の支援につながっている。今後は、就労や教育など生活を中心としたサポートが重要。本国や近隣諸国で避難生活を続ける人々のために第二期募金開始

■ウクライナ避難者サポートサイトを開設

日本 YMCA 同盟と NPO 法人日本ウクライナ文化協会等との協働で新しくサイトを設置。避難者

に必要な情報を日本語とウクライナ語で提供していく。

■ヨーロッパ YMCA 同盟のフェイスブック

日本 YMCA 同盟とヨーロッパ同盟、ポーランド YMCA との連携で避難者の支援活動が展開されていること、また在日本ウクライナ大使館から感謝されたことについて掲載。

■広島県三次市に避難したご家族が新生活スタート

4/17 にウクライナから避難してきたイリーナさん家族 5 人は、その後広島県三次市で支援を受け、新たな生活をスタートしている。

■横浜 YMCA ウクライナ出身の音楽家が、民族楽器バンドウーラを演奏。

ウクライナ民謡のほか「ふるさと」や「翼をください」も演奏。日本に避難した母とともに平和への想いが語られた。

■各地で募金活動中

▽とちぎ YMCA で街頭募金 33 万円。近隣 NPO も YMCA を選んで募金くださるなど、多くの方から関心が寄せられている。

▽東京の江東 YMCA 幼稚園では、園児たちが平和のキャンペーンを実施。館内に募金箱を設置しているほか、ウクライナ YMCA に写真を送るなどして支援している。

■ウクライナ・カフェ 四谷にオープン

日本 YMCA 同盟では、日本に避難したウクライナ人のための交流・学びの場として、“Ukraine Café HIMAWARI” をオープン。5 月 8 日には「母の日」イベントとして工作ワークショップや生活相談会を実施した。今後も日本語教室や生活相談などを行う。

2. 世界の YMCA のトピックス

■世界 YMCA 大会 参加者募集中 締め切り
5/25

世界の YMCA 運動の方向性を確認し、グローバルネットワークを実際に感じ取ることのできる機会として、4 年に 1 回開催される世界 YMCA 大会。今年はデンマーク オーフスでの現地参加と

オンライン参加のハイブリッドで開催されるため、より多くの人々の世界 YMCA 大会への参加が可能となり、日

■世界 YMCA 同盟/YMCA ヨーロッパ 2021 年事業報告書が公開。

COP26 気候変動会議での YMCA のプレゼンスを含む 2021 年度の主要な活動が掲載されている。

■世界 YMCA 同盟カルロス・サンヴィー総主事からのイースターメッセージ。

「世界の YMCA ムーブメントは、この傷ついた世界に光と希望の灯火となるよう求められています。」

■「アジア・太平洋 YMCA 同盟常務委員会 (4/1-2)」

アジア・太平洋 YMCA 同盟は今後、メインオフィスのみ韓国の済州島に移る方向となった。また

「第 21 回アジア・太平洋 YMCA 大会」が 2023 年にインドのマドラスで開催されることが決定された。

■小さな一滴が大きな海を作る。APAY #Earth Hour 2 Earth Day を実施

3/26~4/22 Earth Day まで合計 28 日間、地球温暖化を食い止めるために、チャレンジ呼びかけ。

■APAY(アジア太平洋 YMCA 同盟) I am for Zero Waste

グリーンアンバサダー研修の参加者が、最大温暖化 1.5 度を達成するために、2030 年までにゼロネットカーボンを採用することを呼びかけている。イラストを使った動画も公開。

3. 日本の YMCA のトピックス

■「北見 YMCA いろはの会」が受賞

2021 年度北海道社会貢献賞(国際協力功労者)に選ばれ、4 月 16 日(土)北海道新聞にも掲載。海外からの学生や技能実習生らに日本語指導を 20 年以上続けてきた功績が評価され受賞。

■盛岡 YMCA 「放課後児童クラブ ぷらいむ・たいむ向中野校」平和について考える

春休みに「平和」について考える時間を持ち、ウクライナの子どもたちへ向けて、応援メッセージ

や平和の絵を描いた。ウクライナの子どもたちへ届けられる。

■【神戸 YMCA 学院専門学校日本語学科】

入国制限が緩和され、全国の日本語学校に留学生が入学。オンラインを活用しながらも、校内に活気が戻る。

■鹿児島 YMCA 1 年間のチアダンススクールの集大成である発表会

全国大会にも出場する競合チーム「鹿児島 YMCA チアダンススクール」の発表会が 4 月 17 日に開催され、市内から 250 名もの参加者が集まった。

4. 日本の YMCA のトピックス

■2022 年度インターナショナルチャリティーラン

2022 年度初、第 8 回和歌山 YMCA チャリティーランが 4/29 に和歌山市民スポーツ広場にて開催。

北海道 YMCA 5/15~29、web にて開催予定。5/21 山梨 YMCA、6/26 とちぎ YMCA で順次開催

■「日本の高校生が直面するジェンダー・ステレオタイプの実態」レポート発表記念イベント

2000 人の高校生を対象に行ったジェンダーに関するアンケートの発表会に、東京 YMCA 高等学院の藤原聖帆さんがパネリストとして登壇。ただいま参加者募集中 (5/12 オンライン開催)

■【京都 YMCA】6/4SDGs 理解セミナー「アフリカケニアで暮らすこどもとマサイのくらしから学ぶ」

ケニアの地で 34 年の長きにわたって活動されている早川千晶さんをお迎えし、ミュージシャンでドゥルマの伝統音楽継承者でもある大西匡哉さんとの音楽セッションとともに楽しく学ぶ。

4. 日本 YMCA 同盟からのお知らせ

■第 11 回 (2022 年度) 日本 YMCA 同盟協議会は 6 月 18 日-19 日。

第 11 回日本 YMCA 同盟協議会は、YMCA スタッフ及び会員の代表者、YMCA の未来を担うユースが、一同に集い出会う場。今年度は感染対策を徹底したうえで東山荘を中心に開催。

担当主事会の報告

次期東日本区担当主事
大澤篤人(日本 YMCA 同盟)

日時:2022年6月4日(土)10:00-11:30

場所:Zoom Meeting(オンライン)

参加者:東日本区ワイズ担当者 16名,深尾ワイズ,栗本ワイズ,事務局(大澤,有田)

①2020-2022年度概要報告

会の冒頭には、Zoomで久しぶりに顔を合わせた皆様の自己紹介から始めた。続いて、新型コロナウイルスの影響を受けたこの2年間を振り返りながら概要をご報告した。コロナ禍の中、例会やイベントを縮小せざるを得ない状況が続き、苦しいにあっても、ワイズメンズクラブとして変わらずYMCAへ支援を続けてくださったことを改めて確認した。またY's×SDGs Youth Action 2022やウクライナ緊急支援など、積極的な運動を進めておられることについても報告した。

②担当主事ハンドブック共有

2020年3月にワイズ・YMCAパートナーシップ検討委員会より作成、発行された「ワイズメンズクラブ担当主事ハンドブック」の内容を、参加者と共に確認した。特にワイズメンズクラブ成立時にさかのぼった担当主事誕生の経緯と、現在担当主事に求められている積極的な姿勢、具体的な役割について、ハンドブックの内容を抜粋しながら確認、共有した。

③各YMCA分団協議 テーマ:コロナ禍からのリカバリーとワイズ協働

約4名ずつの小グループに分かれて、30分間をフリートーク形式でおこなった。上記テーマを軸としながらも、貴重な交流の機会と捉え、各ワイズの近況も話された。終了後には、特に各クラブにおいて注目すべき事例について、グループごとに数分ずつ共有する時間を持った。分団協議には陪席いただいた深尾ワイズ、栗本ワイズも加わっていただき、限られた時間ではあったが有意義な時となった。

④その他

最後には深尾ワイズ、栗本ワイズからもご感想を伺った。大変いい機会に参加できてよかった、といった前

向きなご意見と共に、会員増強について、担当主事が自分事として取り組んでほしい旨お話され、改めて協力のご依頼をいただいた。

東日本区からのお知らせ

5 月度新規入会者

入会日	部	クラブ	入会者	紹介者
22/5/10	あずさ部	甲府 21	福山 平	宮岡宏美
22/5/12	北東部	宇都宮	早乙女操	大久保知宏

JEF 献金

献金日	部	クラブ	献金者	金額
22/5/18	あずさ部	東京武蔵野 多摩	板村哲也	¥10000

ミャンマー募金

14 件累計¥263,658 5 月 31 日送金

ウクライナ募金

40 件累計¥898,000

JEF から支出¥102,000 を加えて 5 月 31 日送金

YMCA 報告

日本 YMCA 同盟協力主事/担当主事
光永尚生(三島)



1. ウクライナ関係

■ウクライナ緊急支援募金
第二期スタート (8 月 31 日
まで)

3 月初旬から始まった日本 YMCA 同盟、ヨーロッパ YMCA 同盟、ウクライナ YMCA との連携による避難者支援は、4 月 28 日までに 39 組 87 名の支援につながっている。今後は、就労や教育など生活を中心としたサポートが重要。本国や近隣諸国で避難生活を続ける人々のために第二期募金開始

■ウクライナ避難者サポートサイトを開設

日本 YMCA 同盟と NPO 法人日本ウクライナ文化協会等との協働で新しくサイトを設置。避難者

に必要な情報を日本語とウクライナ語で提供していく。

■ヨーロッパ YMCA 同盟のフェイスブック

日本 YMCA 同盟とヨーロッパ同盟、ポーランド YMCA との連携で避難者の支援活動が展開されていること、また在日本ウクライナ大使館から感謝されたことについて掲載。

■広島県三次市に避難したご家族が新生活スタート

4/17 にウクライナから避難してきたイリーナさん家族 5 人は、その後広島県三次市で支援を受け、新たな生活をスタートしている。

■横浜 YMCA ウクライナ出身の音楽家が、民族楽器バンドウーラを演奏。

ウクライナ民謡のほか「ふるさと」や「翼をください」も演奏。日本に避難した母とともに平和への想いが語られた。

■各地で募金活動中

▽とちぎ YMCA で街頭募金 33 万円。近隣 NPO も YMCA を選んで募金くださるなど、多くの方から関心が寄せられている。

▽東京の江東 YMCA 幼稚園では、園児たちが平和のキャンペーンを実施。館内に募金箱を設置しているほか、ウクライナ YMCA に写真を送るなどして支援している。

■ウクライナ・カフェ 四谷にオープン

日本 YMCA 同盟では、日本に避難したウクライナ人のための交流・学びの場として、“Ukraine Café HIMAWARI” をオープン。5 月 8 日には「母の日」イベントとして工作ワークショップや生活相談会を実施した。今後も日本語教室や生活相談などを行う。

2. 世界の YMCA のトピックス

■世界 YMCA 大会 参加者募集中 締め切り
5/25

世界の YMCA 運動の方向性を確認し、グローバルネットワークを実際に感じ取ることのできる機会として、4 年に 1 回開催される世界 YMCA 大会。今年はデンマーク オーフスでの現地参加と

オンライン参加のハイブリッドで開催されるため、より多くの人々の世界 YMCA 大会への参加が可能となり、日

■世界 YMCA 同盟/YMCA ヨーロッパ 2021 年事業報告書が公開。

COP26 気候変動会議での YMCA のプレゼンスを含む 2021 年度の主要な活動が掲載されている。

■世界 YMCA 同盟カルロス・サンヴィー総主事からのイースターメッセージ。

「世界の YMCA ムーブメントは、この傷ついた世界に光と希望の灯火となるよう求められています。」

■「アジア・太平洋 YMCA 同盟常務委員会 (4/1-2)」

アジア・太平洋 YMCA 同盟は今後、メインオフィスのみ韓国の済州島に移る方向となった。また

「第 21 回アジア・太平洋 YMCA 大会」が 2023 年にインドのマドラスで開催されることが決定された。

■小さな一滴が大きな海を作る。APAY #Earth Hour 2 Earth Day を実施

3/26~4/22 Earth Day まで合計 28 日間、地球温暖化を食い止めるために、チャレンジ呼びかけ。

■APAY(アジア太平洋 YMCA 同盟) I am for Zero Waste

グリーンアンバサダー研修の参加者が、最大温暖化 1.5 度を達成するために、2030 年までにゼロネットカーボンを採用することを呼びかけている。イラストを使った動画も公開。

3. 日本の YMCA のトピックス

■「北見 YMCA いろはの会」が受賞

2021 年度北海道社会貢献賞(国際協力功労者)に選ばれ、4 月 16 日(土)北海道新聞にも掲載。海外からの学生や技能実習生らに日本語指導を 20 年以上続けてきた功績が評価され受賞。

■盛岡 YMCA 「放課後児童クラブ ぷらいむ・たいむ向中野校」平和について考える

春休みに「平和」について考える時間を持ち、ウクライナの子どもたちへ向けて、応援メッセージ

や平和の絵を描いた。ウクライナの子どもたちへ届けられる。

■【神戸 YMCA 学院専門学校日本語学科】

入国制限が緩和され、全国の日本語学校に留学生が入学。オンラインを活用しながらも、校内に活気が戻る。

■鹿児島 YMCA 1 年間のチアダンススクールの集大成である発表会

全国大会にも出場する競合チーム「鹿児島 YMCA チアダンススクール」の発表会が 4 月 17 日に開催され、市内から 250 名もの参加者が集まった。

4. 日本の YMCA のトピックス

■2022 年度インターナショナルチャリティーラン

2022 年度初、第 8 回和歌山 YMCA チャリティーランが 4/29 に和歌山市民スポーツ広場にて開催。

北海道 YMCA 5/15~29、web にて開催予定。5/21 山梨 YMCA、6/26 とちぎ YMCA で順次開催

■「日本の高校生が直面するジェンダー・ステレオタイプの実態」レポート発表記念イベント

2000 人の高校生を対象に行ったジェンダーに関するアンケートの発表会に、東京 YMCA 高等学院の藤原聖帆さんがパネリストとして登壇。ただいま参加者募集中 (5/12 オンライン開催)

■【京都 YMCA】6/4SDGs 理解セミナー「アフリカケニアで暮らすこどもとマサイのくらしから学ぶ」

ケニアの地で 34 年の長きにわたって活動されている早川千晶さんをお迎えし、ミュージシャンでドゥルマの伝統音楽継承者でもある大西匡哉さんとの音楽セッションとともに楽しく学ぶ。

4. 日本 YMCA 同盟からのお知らせ

■第 11 回 (2022 年度) 日本 YMCA 同盟協議会は 6 月 18 日-19 日。

第 11 回日本 YMCA 同盟協議会は、YMCA スタッフ及び会員の代表者、YMCA の未来を担うユースが、一同に集い出会う場。今年度は感染対策を徹底したうえで東山荘を中心に開催。

2021-2022 年度 東日本区表彰一覧

理事表彰

東日本区奈良傳賞

平本 善一さん（東京町田コスモスクラブ 1930 年 12 月 5 日生まれ 91 歳）

1990 年 4 月「東京 YMCA 町田センター」設置を機に、1 年後の 1991 年 5 月、東京まちだワイズメンズクラブを設立し、自らチャーターメンバーとなり、2017 年クラブ合併により「東京町田コスモスワイズメンズクラブ」に編入し、2022 年 3 月現在、同クラブのクラブ功労会員。チャプレンとして、クラブのリーダーシップを担っています。30 年を超えてワイズメンズクラブ活動を継続中です。また、70 歳にして神学校に入学し、卒業後、日本基督教団牧師となるなど、強い向上心とその行動力は、他のメンバーの模範となるものです。

山田 修司さん（熱海クラブ 1937 年 5 月 20 日生まれ 85 歳）

1976 年に熱海クラブに入会し、その温かい人柄と人望から 1993 年に創立 30 周年記念式典の実行委員長を務められました。お年玉切手シートを毎年数百枚収集し、東日本区で連続して最優秀賞を受賞しています。多いときは 1,000 枚以上を収集されました。クラブ内では、親睦委員長を務めることが多く、クラブ内の親睦に熱心に取り組み、新会員紹介においてはクラブ内で一番の貢献者です。

最優秀クラブ賞

東京グリーンクラブ

コロナ禍の中、感染対策を検討し、長年実施していた「神田川船の会」を 2021 年 10 月から再開し、昌平小学校の課外船上学習を開催しました。また、献金目標に対して、全種目において目標を達成しました。

ブリテン最優秀賞

石巻広域クラブ

情報がクラブ内に対するもの、クラブ外に対するものがバランスよく配置されていて、今後のクラブに求められるブリテンの形式に近いものとなっています。

地域奉仕・YMCA サービス事業表彰

地域奉仕活動特別賞

甲府 21 クラブ

地域団体（「山梨掃除に学ぶ会」）の活動（4 月 3 日実施）に参加して、地域の中における意識の高い人々との出会いと交流を実現。道具の正しい使い方や、手入れの方法を学び W4W の質を上げる試みを実施。今期の CS 活動として評価致しました。

YMCA サービス特別賞

札幌クラブ

YMCA バザー (10/3 実施)、昨年より更に一工夫して、以下を「完全予約」で個人指導を実施。

- ① 親子スポーツ体験 (クライミング、トランポリン、スラックライン)
- ② 水泳プライベートレッスン ③ クラフト体験 ④ ビンゴ大会
- ⑤ ゲームコーナーなど

CS 献金貢献賞(一人当たり)

1位：熱海(2,045円) 2位：東京たんぼぼ(1,536円) 3位：東京江東(1,513円)

CS 献金達成賞

札幌、十勝、宇都宮、仙台青葉城、宇都宮東、もりおか、仙台広瀬川、石巻広域、東京江東、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、川越、東京、東京むかで、東京世田谷、東京多摩みなみ、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京八王子、東京たんぼぼ、富士五湖、横浜、金沢八景、横浜つづき、熱海、沼津、伊東、三島、下田、熱海グローリー、御殿場、富士、富士宮 (39クラブ)

年賀切手収集個人優秀賞

山田修司さん(熱海 176枚) 安田克己さん(熱海 51枚)

年賀切手収集協力賞

1位：熱海 2位：東京

ASF 献金貢献賞(一人当たり)

1位：東京多摩みなみ(1,128円) 2位：東京たんぼぼ(786円) 3位：東京(614円)

ASF 献金達成賞

十勝、宇都宮、仙台青葉城、もりおか、東京江東、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、川越、千葉ウエスト、東京、東京むかで、東京世田谷、東京町田コスモス、東京多摩みなみ、東京町田スマイリング、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京たんぼぼ、富士五湖、横浜、横浜つづき、横浜つるみ、熱海、沼津、伊東、熱海グローリー、御殿場 (33クラブ)

FF 献金貢献賞(一人当たり)

1位：熱海 (1,000円) 2位：東京たんぼぼ(786円) 3位：東京(773円)

FF 献金達成賞

十勝、もりおか、東京江東、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、川越、千葉ウエスト、東京、東京むかで、東京世田谷、東京町田コスモス、東京多摩みなみ、東京町田スマイリング、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京たんぼぼ、富士五湖、横浜、横浜つづき、横浜つるみ、熱海、沼津、伊東、熱海グローリー、御殿場 (31クラブ)

会員増強事業表彰

EMC 特別賞

甲府クラブ(甲府やまなみクラブの設立に尽力)

新入会員獲得最優秀賞

甲府 21 クラブ(6名)

新入会員獲得優秀賞

所沢(4名)

新入会員獲得努力賞(2名)

石巻広域、東京むかで、東京町田コスモス、東京多摩みなみ、鎌倉、熱海、熱海グローリー、御殿場

新入会員獲得特別賞(個人として会員増強に貢献)

新入会員獲得最優秀個人賞

宮岡宏実さん(甲府 21) 6名

新入会員獲得優秀個人賞

大澤和子さん(所沢)4名、綾野憲夫さん(熱海グローリー)2名

出席率部門

出席率最優秀賞 (99%)

千葉ウエスト、東京西

出席率優秀賞 (90%以上)

東京町田スマイリング(97%)、三島(95%)、横浜つるみ(94%)、横浜とつか(92%)、横浜つづき(92%)、東京八王子(91%)、熱海グローリー(91%)、御殿場(91%)、東京むかで(90%)、東京世田谷(90%)

ノンドロップ賞

札幌、北見、十勝、前橋、仙台青葉城、足利、宇都宮東、もりおか、千葉、所沢、川越 千葉ウエスト、東京センテニアル、東京西、松本、富士五湖、横浜、鎌倉、金沢八景 横浜つるみ、沼津、熱海グローリー (22クラブ)

SNS 活用部門

SNS,HP,QR コード活用賞

熱海クラブ(155回)、甲府 21 クラブ(133回)

国際・交流事業表彰

BF 献金貢献賞(一人当たり)

1位：東京(2,703円) 2位：東京サンライズ(2,447円) 3位：沼津(2,126円)

BF 献金達成賞

十勝、もりおか、東京江東、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、川越、東京、東京むかで、東京世田谷、東京多摩みなみ、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京八王子、東京たんぽぽ、富士五湖、横浜、横浜つづき、横浜つるみ、熱海、沼津、伊東、熱海グローリー、富士 (29クラブ)

BF 使用済み切手収集優秀賞

1位：仙台(5,100円) 2位：沼津(1,660円) 3位：東京八王子(1,488円)

TOF 献金貢献賞(一人当たり)

1位：東京多摩みなみ(2,356円) 2位：東京西 (2,041円) 3位：東京たんぽぽ(1,586円)

TOF 献金達成賞

十勝、宇都宮、仙台青葉城、もりおか、仙台広瀬川、東京江東、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、東京ひがし、川越、東京、東京むかで、東京世田谷、東京多摩みなみ、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京八王子、東京たんぽぽ、富士五湖、横浜、厚木、横浜つづき、熱海、沼津、伊東、三島、下田、熱海グローリー、富士、富士宮 (36クラブ)

RBM 献金貢献賞(一人当たり)

1位：東京江東(4,484円) 2位：東京たんぽぽ(1,086円) 3位：東京サンライズ(960円)

RBM 献金達成賞

十勝、もりおか、東京江東、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、東京ひがし、川越、東京ベイサイド、千葉ウエスト、東京むかで、東京世田谷、東京町田コスモス、東京多摩みなみ、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京八王子、東京たんぽぽ、富士五湖、横浜、金沢八景、横浜つづき、熱海、沼津、伊東、熱海グローリー、富士 (32クラブ)

YES 献金貢献賞(一人当たり)

1位：東京多摩みなみ(611円) 2位：東京サンライズ(600円) 3位：甲府(517円)

YES 献金達成賞

十勝、宇都宮、もりおか、東京江東、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、東京ひがし、川越、千葉ウエスト、東京むかで、東京世田谷、東京町田コスモス、東京多摩みなみ、東京町田スマイリング、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京たんぼぼ、富士五湖、横浜、横浜つづき、熱海、沼津、伊東、熱海グローリー (30クラブ)

ユース事業表彰

YIA 優秀賞

東京八王子クラブ

永年の「中央大学学生 YMCA ひつじぐも」への支援に対して

YIA 特別賞

富士宮クラブ

SDGs プロジェクトに選ばれた高校会議所の立ち上げにクラブ周年事業として協力し活動

ユース活動支援献金貢献賞(一人当たり)

1位：横浜とつか(4,167円) 2位：下田(3,333円) 3位：伊東(1,429円)、御殿場(1,429円)

ユース活動支援献金達成賞

北見、十勝、宇都宮、仙台青葉城、石巻広域、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、東京ひがし、川越、千葉ウエスト、東京世田谷、東京多摩みなみ、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京八王子、東京たんぼぼ、富士五湖、横浜、横浜とつか、横浜つるみ、熱海、沼津、伊東、下田、熱海グローリー、御殿場 (32クラブ)

ユース活動支援献金協力賞(新設献金初年度のため今年度のみ表彰)

茨城、東京町田コスモス、東京センテニアル、長野、鎌倉、富士宮 (6クラブ)

PWALP 献金貢献賞(一人当たり)【ワイズ創始者ポール・ウィリアム・アレキサンダー遺産計画】

1位：東京サンライズ(960円) 2位：甲府(828円) 3位：東京(818円)

PWALP 献金協力賞

十勝、宇都宮、石巻広域、東京江東、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、川越、茨城、千葉ウエスト、東京、東京むかで、東京世田谷、東京町田コスモス、東京センテニアル、東京多摩みなみ、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、松本、東京サンライズ、甲府 21、東京たんぼぼ、富士五湖、長野、横浜、熱海 (29クラブ)

全献金達成クラブ(献金事業9種全てを目標達成したクラブ)

十勝、千葉、東京グリーン、埼玉、東京北、所沢、川越、東京世田谷、東京多摩みなみ、甲府、東京西、東京武蔵野多摩、東京サンライズ、甲府 21、東京たんぼぼ、富士五湖、横浜、熱海 (18クラブ)



YMI

戦略 2032

親睦と地域社会への影響力における卓越性

戦略 2032 は、ワイズメンズクラブ国際協会 (YMI) を、公平で持続可能な世界を築くために、互いに刺激し合い、協力し合って、親睦と地域社会への影響力において卓越した組織とするための 10 年間の青写真です。戦略 2032 は、YMI が、創立から 2 世紀目を迎えるにあたって、集団として成長し、世界に永続的で前向きな変化をもたらしたいという願いを込めています。

2032 年の YMI

1. 価値観に基づく、会員とその家族の包摂的な親睦活動が行われている
2. 多様性を受け入れる、地域社会に根ざした奉仕クラブの活気ある連合体である
3. 100 カ国、2,500 都市/地域社会において強力な存在感を示している
4. 適切な存在であり続け、若い会員を惹きつけることによって、継続的に成長している
5. 健康、環境、教育の分野で、目に見えるポジティブな影響を与えている
6. YMCA とそのミッションの世界的なパートナーとして活動している
7. すべての人々にとって、公平で持続可能な世界のために行動している



戦略 2032 について

ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)は、トレード YMCA の昼食会のクラブが、ユニークな価値観を共有し、世界に大きな影響を与える人々のグローバルな団体に発展したものです。ワイズメンという名前は、無私の奉仕と犠牲的な寄付の代名詞となり、私たちは、それを義務として認識することで、1 世紀以上にわたって、世界中の多くの人々の生活に関わり、元気つけてきました。YMI は、一貫して、普通の人々が自分自身や他の人々の生活に驚くほどの変化をもたらすことができることを示してきました。YMI は、世界最大の青少年奉仕団体である YMCA を無条件に支援することを設立の目的とした運動です。私たちは、YMCA とそのミッションに対する継続的な忠誠と支援を示しながら、ニーズに基づいた活動やプログラムを行い、完全に独立したダイナミックな組織として自らを定義し、長年にわたって、私たちの務めと影響力は、飛躍的に発展してきました。私たちは、YMCA との関係の伝統に忠実であり続け、ミッションパートナーとして協力することで、HIV/AIDS、マラリア、そして最近では新型コロナウイルスなど、様々な世界的課題に一丸となって立ち向かっています。私たちは、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)の実現に取り組んでいます。YMI は、特に戦争や自然災害などの危機に対して、強靱、迅速、信頼できる奉仕活動を行っていることを誇りにしています。

創立 100 周年に向けて、2009 年に「2022 年に向けて」という目標が、主要な国際事業主任によるチームによって策定され、目標達成のための戦略が練られました。その中で、クラブ会員数 5 万人、世界 100 カ国に拠点を持つというエクステンション目標に、大きな焦点が当てられました。

2016 年に「2022 年に向けて」は、「2022 年とそれ以降に向けて」と改められ、チームの構成は、積極的に熱心な過去の国際協会のリーダーを取り込むように変更されました。2019 年には「チャレンジ 22」という具体的な実施計画が策定され、ブランド認知とアイデンティティ、レガシー(遺産)、YMCA との連携、エクステンションを含む 7 つの重点分野を定めました。

過去数年間にわたり、一貫したコミュニケーションと YMCA との協力関係の改善を通じて、会員内外の YMI に対する好感度を高めることに大きな進歩を遂げました。しかし、エクステンションの目標を達成するには至っていません。新型コロナウイルス感染症の発生により、予想外の新たな課題が発生しました。

今こそ、ミッションパートナーとしての YMCA とのより強力な関わりを実現すること、集団としての影響力と世界的な認知度を高めること、国際的な奉仕団体としての遺産を確保することのために、私たちの努力を新たにするときです。新しい世紀を迎えるにあたり、YMI は、過去の遺産を守ることと、100 年の経験を活かして、明るく、大胆で、活気のある運動として前進することに、同じように誇りを持っています。戦略 2032 は、新しい世代の地球市民を惹きつけて、私たちのユニークな親睦を発展させ、活力を与え、すべての人々にとって公平で持続可能な世界のために知的、情熱的、利他的に共に働く者による、価値があり、活動的で影響力のある運動であることを確実にしたいという願いから生まれました。

守るべきこと

- 私たちの親睦
- 私たちの地域社会・市民活動への積極的な参加
- クラブの個性と自主性
- 私たちの国際性
- 私たちの基本的な価値観
- 私たちの YMCA への忠誠心



現代化すべきこと

- 私たちのアイデンティティーと広報戦略
- 私たちのクラブの親睦と活動
- 私たちの奉仕モデルとクラブの目的
- 私たちの内外との連携方法
- 私たちの YMCA とのパートナーシップモデル
- 私たちのファンドレイジングモデル
- 私たちの国際本部の機能
- 私たちの国際憲法
- 私たちのニューノーマル下での運営体制

影響を与える領域

YMI は、歴史的にその影響力を次のように定義しています。

- 会員の自己啓発とクラブ会員の親睦
- 世界中の多様なコミュニティと YMCA に奉仕すること

YMI の活動範囲は、従来から広く分散していたため、ある意味、決定的なブランド・アイデンティティーの確立を妨げてきました。近年、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs) が注目され、その 17 の目標に沿った活動を行うことが求められています。ポスト新型コロナウイルス下のシナリオおよび新しい世紀を迎えるにあたり、私たちは、世界の現実、メンバーの現在の情熱、若い世代の優先順位に目を向けました。その結果、私たちは、次の 10 年に向けて、私たちの運動に対する理解と認識を深めるために、以下の 3 つの領域に、奉仕活動の重点を置くことを決定しました。ヒールザワールド(「世界を癒そう」)の傘下に置かれる 3 つの領域は、以下のとおりです。



YMI 国際貢献プロジェクト

この枠組みの中で、世界共通の国際貢献プロジェクトとして、ロールバックマラリア (RBM) を継続します。私たちは、2009 年以来、マラリアの世界的な撲滅を目指すさまざまな国際的パートナーシップに投資し、長年にわたってこのプログラムに取り組んできました。これは、他の組織とは一線を画す取り組みであり、保健と環境の両分野に影響を与える、今日的な取り組みでもあります。財政的な関与にとどまらず、私たちは、マラリアに関する認識や予防に関する教育を提供して、唱道活動を強化することで、影響力を高めるよう努めたいと思います。私たちは、生物多様性の保全を優先し、環境的に公平な方法で蚊の発生を抑制するための努力を奨励します。抗マラリア技術の進化に積極的に貢献し、予防接種ができるようになった際には、最前線に立ちましょう。RBM を支援する新たな取り組みに加え、地域の各クラブに対しては、健康、環境、教育の向上につながるコミュニティ内のプロジェクトを行うよう奨励いたします。ま



た、国際的なレベルで、クラブの規模や地理的な違いにかかわらず、すべてのクラブが実施できる具体的なキャンペーンや共同プロジェクトが展開される予定です。

私たちのビジョン

公平で持続可能な世界のために積極的に活動し、価値観に基づく卓越したグローバルな親睦団体であること

私たちの使命

YMI は、所属クラブが、親睦、健康・環境・教育の分野のコミュニティーのプロジェクトおよび世界の YMCA の使命に協力することを通じて、世界に前向きで永続的な変化をもたらす包摂的な国際協会です。

私たちの価値観

YMI は、イエス・キリストの教えに基づき、愛、思いやり、犠牲、無私を基本的価値観として掲げています。

私たちのモットー

強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う

目標

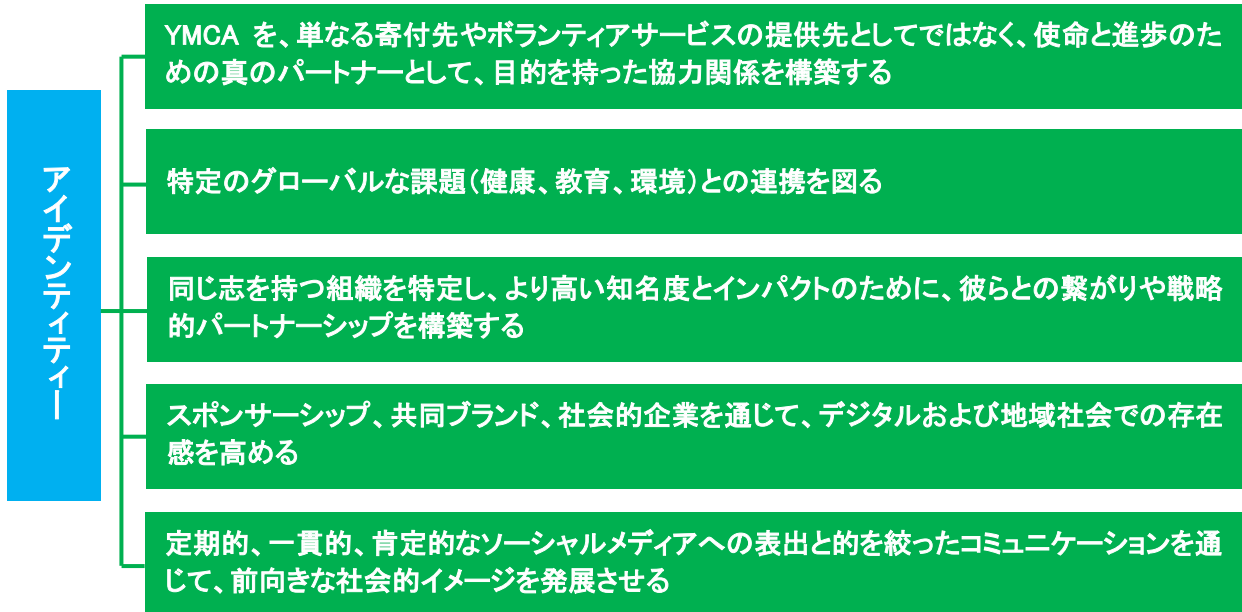
私たちのクラブは、私たちの土台となるレンガです。私たちの国際的な運動の枠組みを支えるためには、各クラブとそのメンバーの誠実さ、情熱、関与が不可欠です。今後 10 年間の全体的な目標は、活気があり、目的意識が統一され、前向きな、強固でつながりのある、よくサポートされたクラブの発展を通じて、親睦とコミュニティーへの影響において YMI の卓越性を構築することにあります。



鍵となる戦略

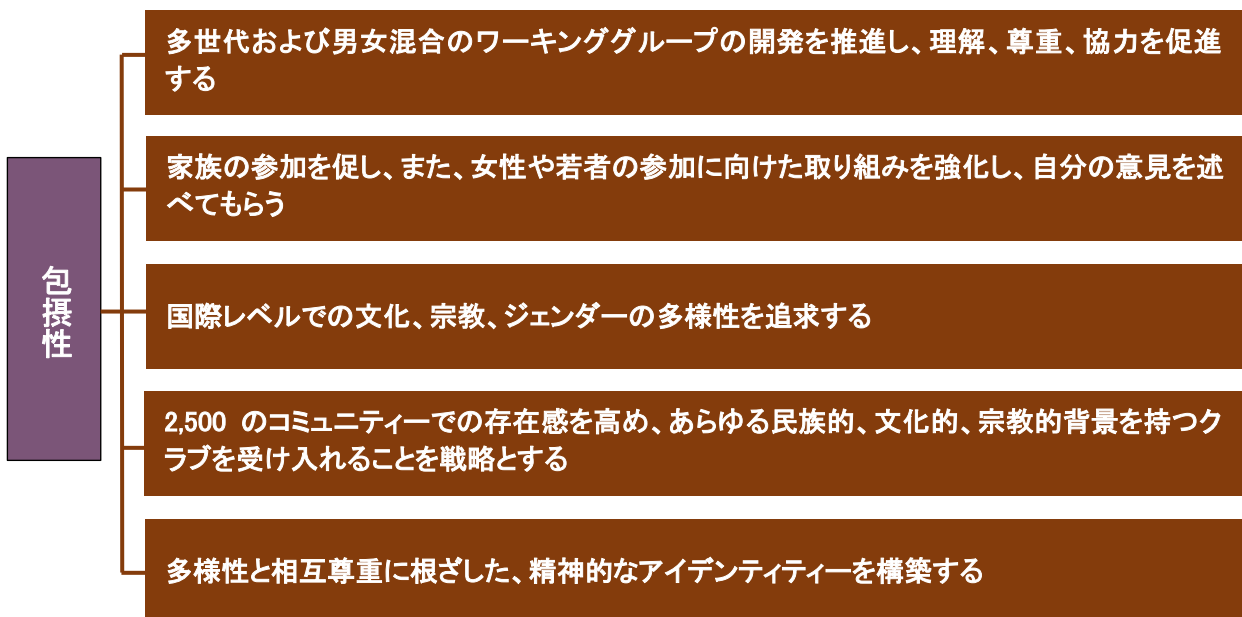
アイデンティティー (Identity)

私たちは、会員を惹きつけ、維持する能力は、強く、明確で、独立した、公的なアイデンティティーによると認識しています。私たちは、次のような方法でブランドの強化に努めます。



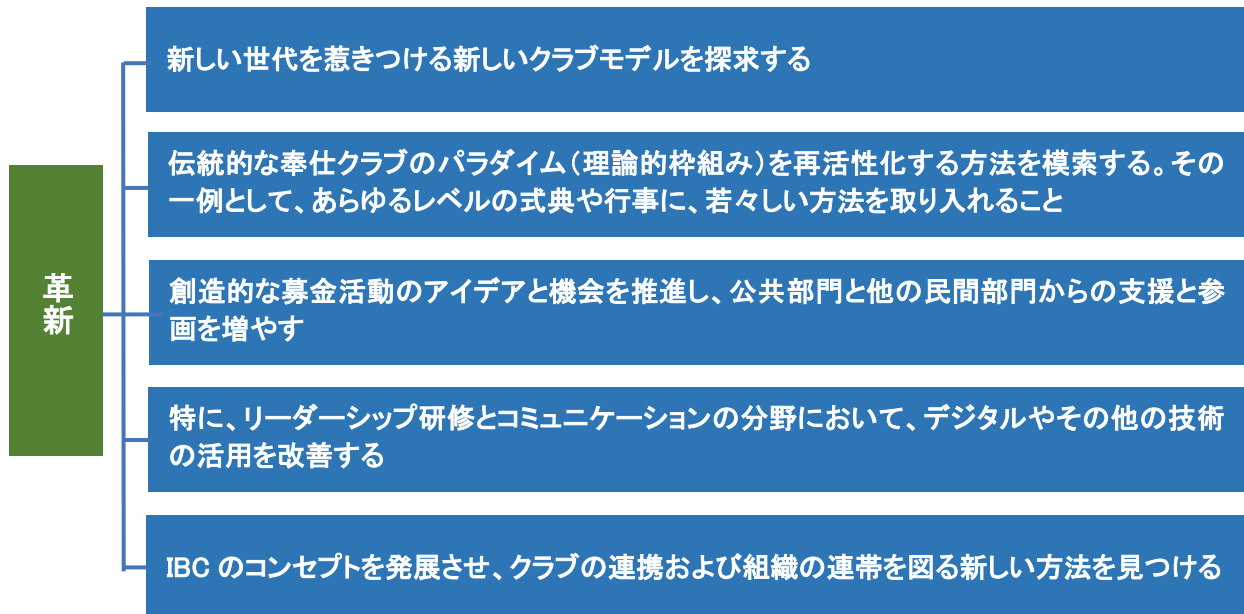
包摂性(Inclusivity)

YMI は、あらゆる信仰を持つ人々が、友人として相互の尊敬と愛情を持って、友として共に働く世界的な友好団体です。YMI は、私たちのビジョンを共有し、使命を受け入れる全ての人を歓迎します。そのためには、ジェンダー、文化、人種、宗教的な配慮を優先し、これが私たちのアイデンティティーの明白かつ重要な一部となるような取り組みを強化する必要があります。私たちは、次のような方法で、包摂性を確保するよう努めます。



革新(Innovation)

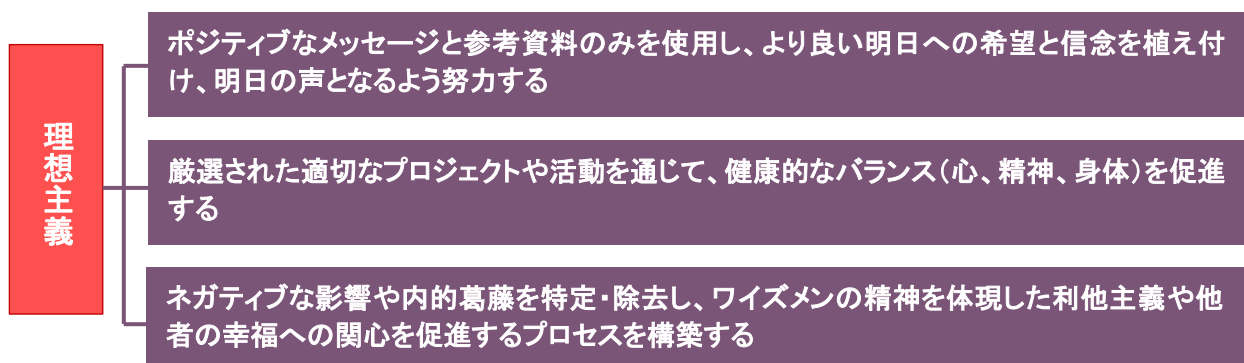
次の 100 年に向けて、YMI は、創造的で、変化をいとわない存在でなければなりません。今こそ、他の比較対象組織との差異を明確化するために、私たちの運動を現代の状況の中で再定義するときなのです。他を真似るのではなく、新しい道筋と伝統を作り出し、今の世代にとって魅力的な存在とになるよう努力しなければなりません。私たちは、次のように革新を図ります。



理想主義(Idealism)

ワイズメンズクラブのメンバーシップの基本は、人格であり、犠牲的利他主義で表現される理想主義です。(1930)

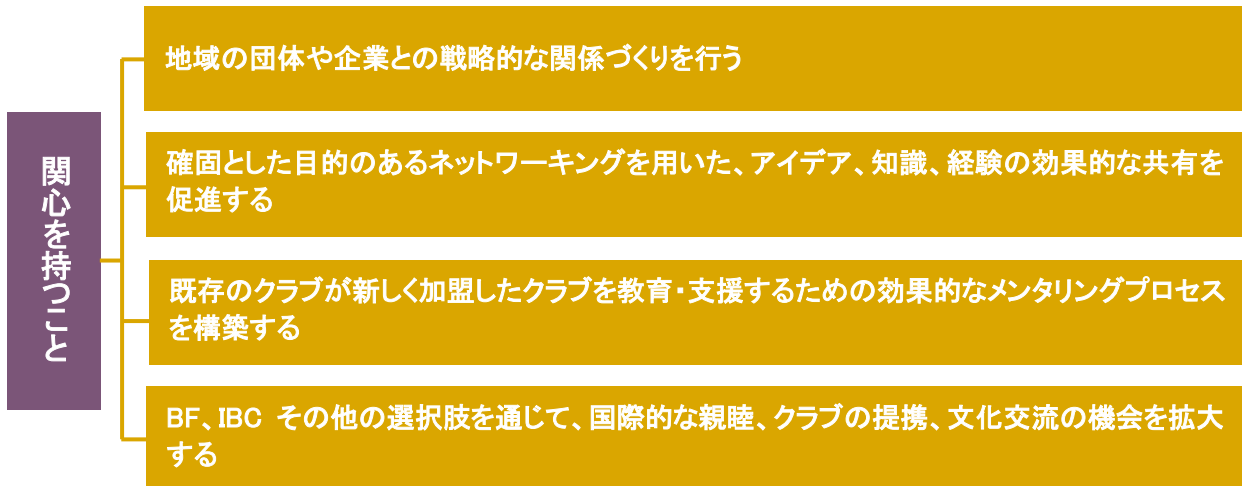
YMI は、積極的な理想主義に基づいた運動として発展してきました。これは、今でも私たちのアイデンティティの本質的な要素です。次の 100 年に向けて前進するとき、私たちは、現実的な楽観主義へのコミットメントを再確認し、希望を持って、偏見を持たず、できるときに、できる場所で、世界中の人々の生活を向上させるために行動します。私たちは、次のように理想主義を貫きます。



関心を持つこと(Interest)

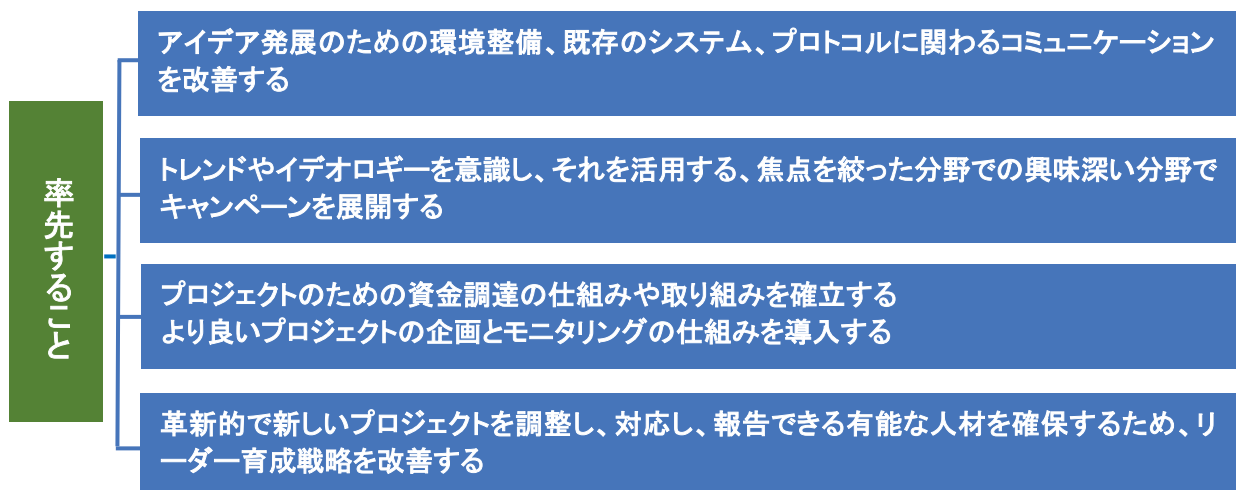
ワイズメンは、まず、他者の幸福に関心を持たなければなりません。ワイズメンが仲間内で許容できないことの一つは、世界情勢や他の国や人の問題に時間をかけず、関心を持たない人です・・・(ポール・ウィリアム・アレクサンダー 1951)

YMI は、設立当初から他者を助け、支援することに基づいた組織でした。これは、貧しい人々のためのプロジェクトに限らず、私たちの考え方や生き方にまで及んでいます。私たちは、既存のメンバーだけでなく、地域の人々にも私たちの運動に関心を持ってもらえるような活動を行います。



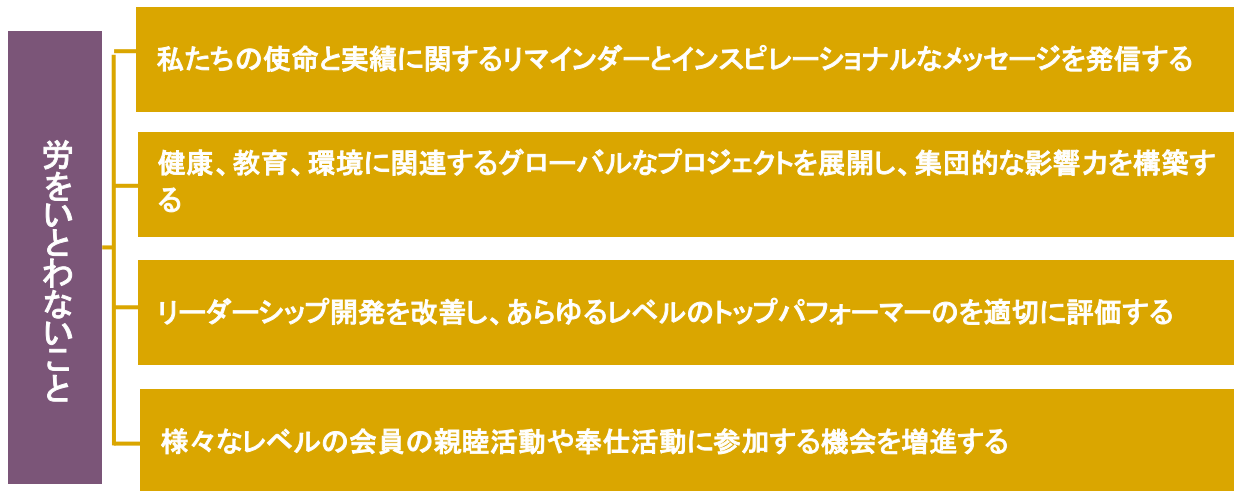
率先すること(Initiative)

YMI の会員は、アイデアを発展させ、それを実行に移すこと、計画を立てそれを実行すること、単に提案に従うだけでなく、提案者となることが期待されています。これは、私たちの役員就任式式文にもあり、私たちの国際的組織にも言えることです。YMI のメンバーは、自分たちを取り巻く世界をより良くするために、積極的に取り組んでいます。YMI は、この歴史的な運動に新たな資源と展望をもたらすために、次のような新しい取り組みを行います。



労をいとわないこと(Industry)

YMI のクラブの会員は、私たちの運動に全面的にコミットし、規模や性質にかかわらず、すべてのタスクや事業を等しく重視する人たちです。ワイズメンズクラブ国際協会では、このような考え方を国際レベルで徹底させるため、以下のような形で勤勉さの改善に取り組んでいます。



行動への呼びかけ

戦略 2032 の目的は、ビジョンの実現に向け、私たちの使命を果たすために、良識的で実現可能かつ意欲的な方法を開発することです。インスピレーションを受けた会員とは、活動的な会員であり、私たちの活動に対する熱意を分かち合い、奉仕活動を行うことで、親睦と地域社会への影響において卓越した組織を築き上げる人たちです。組織のすべてのレベルにおいて、ミッションと集団的な影響力のパートナーとして、YMCA との、目的を持った協力関係を模索します。

第 1 段階では、以下の優先項目とそれに対応するクラブの課題が提案されています。

フェローシップ

- 良い結果を導くような環境を提供することで、家族、青少年、文化的な親睦を深める。
- クラブ間の集いを推進する／IBC や親睦を推進する。
- ワイズメンズクラブ国際協会の国際／地域／区/部の懇親にコミットする。

リーダーシップ

- クラブ会員の個人的および専門的なリーダーシップ開発のための機会を強化する。
- 組織の遺産、理念、使命を認識した上で、研修の機会を提供し、次世代のリーダーを育成する。
- 影響力、情熱、誠実さ、活動性を備えたリーダーを育成する。



コミュニティーインパクト

- 健康、環境、教育の分野でコミュニティーに影響を与えるプロジェクトを実施する。
- 集団的な影響力のため、YMCA との目的を持ったパートナーシップを構築する。
- リソースを共有し、影響力を高めるために協力し合うことで、地域住民のビジネスや他の組織との戦略的な協力関係を構築する。
- 影響力についての良い成果を共有する。

グローバルインパクト

- 健康、環境、教育に関する唱道キャンペーンを実施する。
- 国際協会の主要な国際プログラム (ASF、BF、EF、RBM、TOF) のための資金を調達する。
- 国際協会の国際的なプロジェクトを支援し、関与する。

成長

- 質の高い会員と男女のバランスに重点を置く。
- 地域社会のあらゆる多様性を受け入れる包摂的な組織となる。
- 会員の勧誘と維持をクラブの最優先事項として継続する。
- 新クラブの結成を支援し、使命と影響力において成長するよう指導する。

クラブ、部、区、地域も同様に、この戦略に沿って活動を行うことが奨励され、集合的なビジョンを達成するために、様々なレベルでの具体的かつ測定可能な年次目標を導入する予定です。

2022 年 5 月 国際議会にて採択

